

第2回第六次大野市総合計画後期基本計画策定幹事会
令和6年度第3回大野市総合計画・総合戦略推進会議

次第

日時：令和6年12月18日（水）午後7時～

場所：大野市役所 2階 大会議室

1 開会

【第一部】 合同会議 -----

1 議事

（1）令和6年度主要施策の進捗報告について …資料1

（2）人口の推移について …資料2

（3）市民意識調査の結果報告について …資料3

【第二部】 後期基本計画策定幹事会（8時00頃～） -----

1 議事

（1）後期基本計画の体系等について …資料4

（2）後期基本計画の現状と課題の整理について …資料5

第六次大野市総合計画後期基本計画策定幹事会
委員名簿

(第2回)

No.	選出団体等	役職	氏名	備考
1	福井大学	学部長	岡崎 英一	幹事長
2	福井工業大学	教授	竹田 周平	副幹事長
3	大野市立保育園保護者連合会	理事	山村 かすみ	こども・健幸
4	大野市PTA連合会	会長	尾山 勝也	こども・健幸
5	みらい子育てネット大野	事務局	川田 香菜子	こども・健幸
6	大野市老人クラブ連合会	理事	林 幹雄	こども・健幸
7	社会福祉法人大野市社会福祉協議会	主任	櫻川 みゆき	こども・健幸
8	大野市スポーツ協会	副会長	佐々木 智恵美	こども・健幸
9	福井県農業協同組合	奥越統括支店次長	石田 孝治	経済・くらし
10	九頭竜森林組合	総務課長	保格 浩一	経済・くらし
11	大野商工会議所	課長補佐	嶋田 優子	経済・くらし
12	一般財団法人越前おおの観光ビューロー	副理事長	藤堂 規行	経済・くらし
13	連合福井・福井地域協議会大野地区連絡会	事務局長補佐	堀川 昌市	経済・くらし
14	一般社団法人大野建設業会	事務局長	山川 正秀	経済・くらし
15	大野市消防団女性分団	副分団長	清水 里美	経済・くらし
16	大野市文化協会	副会長	松田 典子	地域づ・行政
17	大野市区長連合会	理事	齋藤 雅彦	地域づ・行政
18	越前信用金庫	常勤理事	佐々木 成充	地域づ・行政
19	一般社団法人大野市医師会	会長	高井 博正	こども・健幸
20	公益社団法人大野青年会議所	専務理事	森田 悠揮	経済・くらし
21	大野市木材組合		竹田 稔	経済・くらし
22	大野男女共同参画ネットワーク	副会長	江波 庄進	地域づ・行政
23	奥越前まんまるサイト		坂本 道子	地域づ・行政
24	大野市教頭会	会長	富田 啓明	こども・健幸
25	中野清水を守る会	会長	島田 健一	経済・くらし
26	下庄をよくする会 しもプロ部	会長	竹内 大策	地域づ・行政
27	公募委員		合田 昌範	経済・くらし
28	公募委員		金原 陽子	こども・健幸
29	公募委員		畑 允子	地域づ・行政
30	公募委員		木村 有希	地域づ・行政

+

庁内WG 23名

事務局

No	所属等	役職	氏名	備考
1	大野市行政経営部	部長	吉田 克弥	
2	大野市行政経営部政策推進課	課長	小林 勝信	
3	大野市行政経営部政策推進課	課長補佐	前田 晃宏	
4	大野市行政経営部政策推進課	企画主査	雨山 直人	

大野市総合計画・総合戦略推進会議
委員名簿

(第3回)

No.	選出団体等	役職	氏名	備考
1	福井大学	学部長	岡崎 英一	会長
2	福井工業大学	教授	竹田 周平	
3	大野市議会	議員	帰山 寿章	
4	大野市立保育園保護者連合会	会計	飯田 圭佑	
5	大野市PTA連合会	会長	尾山 勝也	
6	みらい子育てネット大野	事務局	川田 香菜子	
7	大野市老人クラブ連合会	理事	林 幹雄	
8	社会福祉法人大野市社会福祉協議会	主任	櫻川 みゆき	
9	大野市スポーツ協会	副会長	佐々木 智恵美	
10	福井県農業協同組合奥越統括支店	課長補佐	古川 正人	
11	九頭竜森林組合	総務課長	保格 浩一	
12	大野商工会議所	課長補佐	嶋田 優子	
13	一般財団法人越前おおの観光ビューロー	副理事長	藤堂 規行	
14	連合福井・福井地域協議会大野地区連絡会	事務局長補佐	堀川 昌市	
15	一般社団法人大野建設業会	事務局長	山川 正秀	
16	大野市消防団女性分団	副分団長	清水 里美	
17	大野市文化協会	副会長	松田 典子	副会長
18	大野市区長連合会	理事	齋藤 雅彦	
19	越前信用金庫	常勤理事	佐々木 成充	
20	奥越前まんまるサイト		坂本 道子	
21	大野記者クラブ	幹事社	石畝 健	

※令和5年度に委嘱、任期は令和6年度末(R7.3.31)まで

事務局

No	所属等	役職	氏名	備考
1	大野市行政経営部	部長	吉田 克弥	
2	大野市行政経営部政策推進課	課長	小林 勝信	
3	大野市行政経営部政策推進課	課長補佐	前田 晃宏	
4	大野市行政経営部政策推進課	企画主査	雨山 直人	

第六次大野市総合計画後期基本計画・
第3期大野市総合戦略策定ワーキンググループ
委員名簿

No	部局等	課室	職名	氏名	専門部会
1	教育委員会	教育総務課	課長補佐	大久保 克紀	こども・ 健幸福祉 部会
2		こども支援課	課長補佐	松川 佳子	
3	健幸福祉部	福祉課	課長補佐	善藤 照美	
4		健康長寿課	企画主査	藤田 裕子	
5		スポーツ推進課	課長補佐	平瀬 和美	
6	地域経済部	産業政策課、企業立地推進室、 中部縦貫自動車道整備促進室	課長補佐	五十川 美香子	地域経済・ くらし環境 部会
7			企画主査	松山 倫也	
8		観光交流課	企画主査	嶋田 奈津江	
9		農業林業振興課	企画主査	松本 成玄	
10	くらし環境部	建設整備課	課長補佐	山田 良夫	
11		交通住宅まちづくり課	企画主査	川島 範彦	
12		環境・水循環課	課長補佐	村中 宏美	
13		上下水道課	企画主査	佐藤 実	
14	消防署	消防本部	課長補佐	羽生 雅則	地域づくり・ 行政経営 部会
15	地域づくり部	地域文化課・住民振興室	課長補佐	清水 宏樹	
16		市民生活・統計課	企画主査	新井 大志	
17		防災防犯課	課長補佐	中山 裕子	
18	教育委員会	生涯学習・文化財保護課	課長補佐	山田 明弘	
19	行政経営部	政策推進課	課長補佐	前田 晃宏	
20		秘書広報室	室長	竹田 雄次	
21		総務課、契約管理室	企画主査	北村 邦裕	
22		財政経営課	企画主査	亀岡 有紀	
23		税務課	課長補佐	松田 智幸	

令和6年度上半期(4～9月)
主要事業の取組状況及び成果

令和6年 12 月
大野市

目 次

1 主要事業に関する取組状況	1
① 高速交通網の延伸を生かした稼ぐ力の促進	1
② こどもや若者を地域全体で支える取組	2
③ 人づくりと人材確保	3
④ 安全・安心・快適な暮らしの確保	5
⑤ カーボンニュートラルの達成に向けた取組	6
⑥ 行財政運営の最適化の推進	7
⑦ 市制施行 70 周年記念事業	8
2 成果指標の達成状況	9

1 主要事業に関する取組状況

※基準日は令和6年9月末時点です。一部の取組は、10月以降の内容について末尾に()で記載しています。

※第六次大野市総合計画における関連項目を、冒頭に()で記載しています。

① 高速交通網の延伸を生かした稼ぐ力の促進

(6 農業)

- ・ 水稻だけに頼らない転作作物等の複合経営を推進し、農業者の所得向上を目指すため、主要な転作作物の大麦・そば・大豆の生産に必要な機械の導入費に対し、3件の補助を行った(11月末に1件追加)。
- ・ 農業者のドローンによる農作業の効率化を推進するため、ドローン操縦に必要な講習等の受講費に対し、1件の補助を行った(11月末までに2件追加)。
- ・ 特産作物の産地強化と生産規模を拡大するため、農業者が行う機械や資材の導入費に対し、機械7件、生分解性マルチ3件の補助を行った(11月末までに機械1件、生分解性マルチ1件追加)。
- ・ 特産作物の穴馬スイートコーンのブランド力強化や生産を促進するため、生産者に規格品の出荷量に応じて奨励金を交付する(12月末までに13件予定)。

(8 商工業)

- ・ 事業者の稼ぐ力を応援するため、「結の故郷ビジネスサポートチーム(結サポ)」が、相談会を2回開催した。また、越前おおのブランド活用事業に取り組む3事業者からの相談に対し助言を行った。
- ・ 中部縦貫自動車道の県内全線開通に向け観光客が増加することを見据え、高付加価値な商品の開発に取り組んだ。5月にセミナーを開催し、6～8月にグループ別勉強会を実施した。現在、12事業者が参加し個別に相談を行いながら商品開発に取り組んでいる。
- ・ 新たなビジネスの創出(第二創業含む)を促進するため、「結のビジネスプランコンテスト」を開催する。12事業者(9月末時点)が中小企業診断士などの専門家を交えて、プランを実現させるための課題と解決策について検討を重ねており、事業化が見込めるプランが、3月の最終審査会に進む予定。

(9 観光業)

- ・ 道の駅「越前おおの 荒島の郷」からまちなか、九頭竜、南六呂師の各観光エリアへの周遊を促進するため、新たなマップを作成し、道の駅「越前おおの 荒島の郷」に配架した。
- ・ 北陸新幹線の開業効果を高めるため、7月から8月にかけて新宿・名古屋・大阪の各高島屋で開催された「発掘、恐竜王国展」に参加し、化石発掘体験を実施した(9月 27 日から 29 日のツーリズムEXPOジャパン、10 月5, 6日に石川県で行われた北陸ディスティネーションキャンペーンオープンニングイベントなどにも参加)。
- ・ 中部縦貫自動車道の開通に向けて中京圏に本市の魅力を周知するため、7月 13 日に養老 SA、7月 20 日にイオンモール各務原IC、9月7日、8日に名古屋のふるさと全国県人会祭りにおいて観光PRを行った(10 月5日にイオンモール各務原IC、11 月2日に賤ヶ岳SAでPRを実施)。
- ・ 「食べ歩きグルメ」を開発するため、開発を見込む5品目程度の試食会を越前おおの新そばまつりに合わせて実施する(11 月 16 日に6品目を実施)。
- ・ 観光誘客を促進するため、一般財団法人越前おおの観光ビューローが、御清水のカラフルちょうちんのライトアップや越前おおの結楽座のてぬぐい回廊などを実施したほか、企画したツアー旅行商品が大手旅行会社に採用された。
- ・ 星空観光を推進するため、9月3日に星空保護区認定1周年を記念したイベントを開催した(10 月 25 日に光害に関する講座を開催し、11 月3, 4日にJR越美北線と星空ハンモックを楽しむモニターツアーを開催し 12 名が参加)。

② こどもや若者を地域全体で支える取組

(1 子育て)

- ・ 屋内型こどもの遊び場の整備について、令和7年1月下旬のオープンに向けて改修工事を進めるとともに、施設の愛称を「おおの天空パーク OSORA(おそら)」に決定し、指定管理者を選定した。
- ・ こどもまんなか社会の実現に向けた「(仮称)大野市子ども・若者計画」の策定について、長期休業中に小学生や高校生、大学生の意見を聴く機会を設け、放課後の過ごし方、大野への定住や地域コミュニティーなどについて意見があり、意見は計画策定の参考にしていく(年度内に計画を策定予定)。

- ・ 令和6年度に開設した「こども家庭センター」について、チラシを作成し、7月に適応指導教室、小中学校へ学校訪問を行い、校内掲示や必要な家庭への配布を依頼し、児童・生徒やその家族に対する周知を進めている。
- ・ 8月10日に「こどもまんなかフェス」を結とぴあで開催し、「学び・遊び・体験・つなぐ」をテーマに、12のブースで子どもたちが様々な体験や工作などを楽しんだ。

(2 学び)

- ・ 令和8年4月の新有終南小学校と新富田小学校の新体制に向けて、再編準備委員会に各専門部会を設け、5月から部会を開催し、学用品や体操服のあり方、統合記念式典や統合記念事業、スクールバスの運行などについて協議を進めている(10月末にそれぞれの方針について再編準備委員会で承認)。
- ・ 令和7年度からの有終南小学校と富田小学校の改修工事に向けて、7月から各小学校の設計事業者と学校関係者によるワークショップ、児童へのアンケートなどを行い、改修内容を検討している(令和7年2月末に実施設計を完了予定)。
- ・ 学校再編に合わせて令和5年度から改修に取り組んでいる開成中学校、陽明中学校及び下庄小学校の改修工事は、8月末時点で進捗率が約80.3%となっている(10月末時点で約90.4%、年度内に校舎の改修を完了し、令和7年度は外構工事を予定)。

(10 働く環境)

- ・ 働き方改革の推進について、7月3日に魅力ある職場づくりに向けた企業応援セミナーを開催し、10社が参加した。社員満足度を高める休暇制度の事例や、国・県・市の企業認定制度と補助金などを紹介した。
- ・ 働く人にやさしい企業の令和6年1回目の認定式を7月29日に行い、新たに3社が認定を受け、認定企業は延べ33社となった。子育て世代にやさしい企業2社(延べ29社)が認定を受けた。(働く人にやさしい企業の2回目の認定式を11月20日に行い、3社を認定(延べ36社))。

③ 人づくりと人材確保

(4 地域福祉)

- ・ 障害福祉サービスを安定的に供給するため、計画相談支援事業所の人材確保

と事業継続を支援し、5事業者から5件の申請を受け付けた。

- ・ 離職した介護支援専門員の市内事業所への復帰を促進するため、必要となる研修受講(介護支援専門員再研修)に要する経費のうち、講習会等の受講料、テキスト等の購入費を支援する。令和6年度の受講締切は、11月20日まで(11月25日現在、助成の申請者なし)。

(6 農業)

- ・ 新規就農者や後継者を確保・育成するため、国や県の補助を活用しながら新規就農者の機械設備の導入や経営初期の不安定な資金面に対し支援を行っている(11月末までに設備導入3名、経営開始資金の前期分4件(うち新規1件、継続3件)、後期分は3月を予定)。
- ・ 林業労働力の安定的な確保と長期雇用を促進するため、林業作業士研修を受講し、技能取得しながら林業に従事する、新規の林業従事者を雇用する林業事業体に対し補助を行っている。

(15 道路)

- ・ 除雪事業者のオペレータ不足を解消するため、大型除雪車の操作に必要な免許の取得費や運転技能講習の受講費等に支援し、4事業者から4件の申請を受け付けた(11月末現在、5事業者から6件)。

(17 ひと・地域)

- ・ 東京都内に通う大学生が、卒業時の地方へのU・Iターンを促進するため、国の地方創生移住支援制度の拡充として地方就職学生支援制度を創設し、就職活動のための交通費に対し支援を行っている。
- ・ 公民館を活かした持続可能な地域づくりを検討するため、8月23日に専門家による講演会を開催し、市民と市職員83人が地域活動を豊かにするための公民館を活かす重要性について学んだ。今後、公民館や地域との関わりについて、市においてたたき台を作成し、その後、市民の代表者らを交えてたたき台を参考に議論を深め、丁寧に進めていく。
- ・ 大野市生涯学習推進計画に基づき、様々な講座や講演会を開催するとともに、市民の新たな学びへの意欲を促進するため、公民館、図書館、博物館、生涯学習センターが連携して「生涯学習カード」の活用に取り組み、464人(講座参加延べ1,416回)の市民が参加している。

④ 安全・安心・快適な暮らしの確保

(3 健康・医療)

- ・ 「おおのヘルスウォーキングプログラム」に、2,930 人(令和5度 2,470 人)が参加し、うち 330 人がスマートフォンを活用したアプリコースを利用している。新たな取り組みとして、5,000 歩達成キャンペーンや、正しい歩き方講座、星のまち鑑賞会に合わせたナイトウォーク、アプリの使い方サポートを実施した。

(11 自然環境・ごみ)

- ・ 市民のごみ分別の意識向上を図るため、8月7日と9月 18 日にビュークリーンおくえつの見学会を行い、リサイクル施設の作業箇所や廃棄物の正しい分別方法について学び、参加者(11 名)を「分別マイスター」として認定し、家庭でのごみ分別徹底や、地域での資源リサイクルの促進を依頼した。

(16 公共交通)

- ・ 4月から新しい公共交通に移行した。会員になると自宅まで送迎が受けられる制度を開始した乗合タクシーの会員は、66 名となっている。市営バス和泉大野線、和泉乗合バスは、従前の和泉3線に比べ利用者が増加している。
- ・ 障がいのある人が自立した日常生活や社会生活を送るため、重度の障がいのある人に交付する福祉タクシー助成券を、対象者一人につき 30,000 円分、券を利用できるタクシー事業者を県内 31 者に拡充した。助成券の申請者数は 85 名、利用枚数は 1,315 枚であり、前年度より大幅に増加している(令和5年度 申請者数:71 名、利用枚数:369 枚)。
- ・ 運転免許を持たない高齢者の外出を支援するため、高齢者に交付するタクシー助成券の交付枚数を、対象者一人につき 12,000 円分、券を利用できるタクシー事業者を県内 31 者に拡充した。助成券の申請者数は 520 名、利用枚数は 4,191 枚であり、前年度より大幅に増加している(令和5年度 申請者数:370 名、利用枚数:1,089 枚)。

(14 消防・減災)

- ・ 8月下旬に発生した台風 10 号に対し、台風に備えた避難所の開設準備や水門調整など事前対応及び警戒体制を取り、幸い特段の被害等は無かった。
- ・ 老朽化した高規格救急自動車の更新について、12 月下旬の納車に向けて車両の製造を行っている。

(18 防災力・防犯力)

- ・ 防災行政無線の整備について、新しい 280MHz 防災行政無線システムへの更新作業は、機器入れ替えのための事前点検作業(7月実施)を行うなど、計画通りに進捗している(11 月下旬から各地区の放送子局機器を順次入れ替えし、12 月中には新しい防災行政無線システムによる無線放送へ切り替える予定。また、令和7年1月から戸別受信機貸与の受付を開始する予定)。
- ・ 「空き家相談会」について、第1回を5月に2日間、第2回を8月に2日間開催し、空き家の処分や利活用などについて市内外から延べ 26 件の相談があり、司法書士や宅地建物取引士など、専門家が助言を行った(第3回を 11 月に2日間開催)。

⑤ カーボンニュートラルの達成に向けた取組

(5 スポーツ)

- ・ 環境に配慮した施設整備とコストを削減するためのB&G海洋センターの体育館とトレーニングルームのLED化修繕について、事業者の選定を終え、工事を進めている。

(6 農業)

- ・ 農業分野におけるゼロカーボンの取り組みを推進するため、バッテリー式農機の新規購入や既存のエンジン式農機からの買替に対し補助を行った(11 月末現在、刈払機 34 件、噴霧器9件)。

(7 林業)

- ・ 森づくり事業について、市内児童が育ててきたどんぐりの苗木を、9月に回収した(11 月 12 日に上庄小学校児童による植え替え作業を行い、どんぐり広場で森づくりのイベントを実施)。
- ・ クマ剥ぎ等による獣害被害林の公益的な機能を保全するため、林業事業体に対し、伐採と再造林にかかる経費を支援した。

(11 自然環境・ごみ)

- ・ 脱炭素社会の実現と本市の美しい星空を保護するため、7月7日のクールアースデーに合わせて、7月1日から7月 31 日までの夜間、市民や 72 事業者の協力を得て一斉ライトダウンを実施した。この期間に、市役所市民ホールをはじめ

市内金融機関やショッピングセンターにおいて、地球温暖化に関するパネル展を開催し、環境問題について学ぶ機会を設けた。

- ・ 8月18日に開催した「らんま先生によるサイエンスショー」は、親子55組163人が参加し、科学実験を通して水や環境問題への理解を深めた。
- ・ 大野市脱炭素ビジョンの目標を達成するため、脱炭素推進会議委員を中心とした有志9人により脱炭素ワークショップを構成し、「地域資源を生かした脱炭素化」をテーマに3回の議論を重ね、事業者や団体、市が取り組みそうな具体策を報告書にまとめた。

⑥ 行財政運営の最適化の推進

(23 市民サービス)

- ・ 財務会計・庶務事務・文書管理・電子決裁・人事給与・企業会計のそれぞれの事務を一体的に管理できる事務統合システムの導入に向けて、受注候補者を選定し、導入予定のシステムの仕様について調整を行っている。
- ・ 令和7年度末を期限として国が進めている自治体情報システムの標準化に向けて、使用文字の標準化作業や移行後の運用方法などについて検討し、引き続き、移行に向けた作業を進めていく。
- ・ 生成AIの本格運用を開始し、9月末までに885時間分の事務効率化を図ることができた。また、ICTアドバイザーやAIアドバイザーからの専門的な知見を、業務を進める上で活かしている。
- ・ 国が進めるマイナンバーカードと国民健康保険被保険者証の一体化(以下「マイナ保険証」)について、本年12月2日からマイナ保険証による受診を原則とする制度への移行に関し、医療機関等でのポスター、チラシの設置や、国民健康保険被保険者証の一斉更新に合わせたチラシの同封により周知した。
- ・ なお、マイナ保険証の普及促進に関して、マイナンバーカードの交付枚数は、2万6,295枚で普及率86.35%(11月24日時点2万6,755枚、87.86%)、国民健康保険と後期高齢者医療保険のマイナ保険証利用登録率は、それぞれ69.84%と60.45%となっている。

(13 生活環境)

- ・ 汚水処理施設の最適化に向けて、維持管理組合や地域住民を対象に説明会を行い、農業集落排水施設を公共下水道に接続することや、農業集落排水施設同士を統合することなどの農業集落排水施設の統合について、15 処理区全ての維持管理組合から同意を得た。

(24 行財政)

- ・ 公共施設の再編について、計画において施設の方向性が「維持管理」や「見直し」となっている施設の方向性を再点検するため、公共施設再編推進庁内会議を設置し、判定方法を見直し、施設の方向性について一次判定を実施した。引き続き、一次判定の結果を踏まえ施設の方向性を検討する。

⑦ 市制施行 70 周年記念事業

(22 協働・連携)

- ・ 昭和 29 年 7 月の市制施行から 70 周年を迎え、将来にわたって持続可能なまちづくりを実現するため、100 年先も誇れる大野市をみんなでつくりあげていく機会となるよう、「いつまでも、ともに」をテーマに 70 周年記念事業を展開し、市主催 11 事業、市民主催 14 事業を実施している(11 月末時点、市主催 13 事業、市民主催 18 事業を実施)。

2 成果指標の達成状況

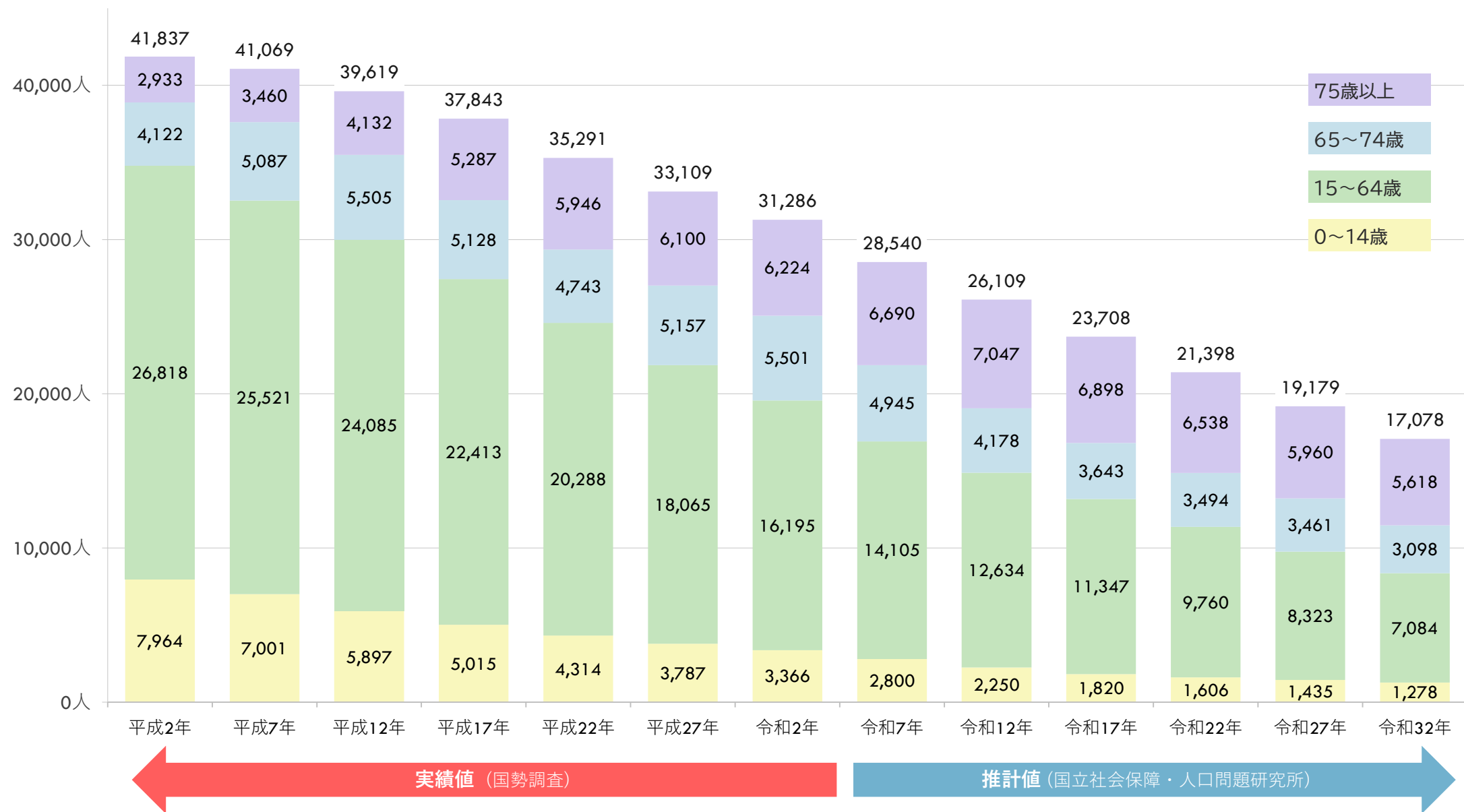
・「オレンジ色」は令和7年度目標を達成したもの

・「－」は9月末時点の集計ができないもの

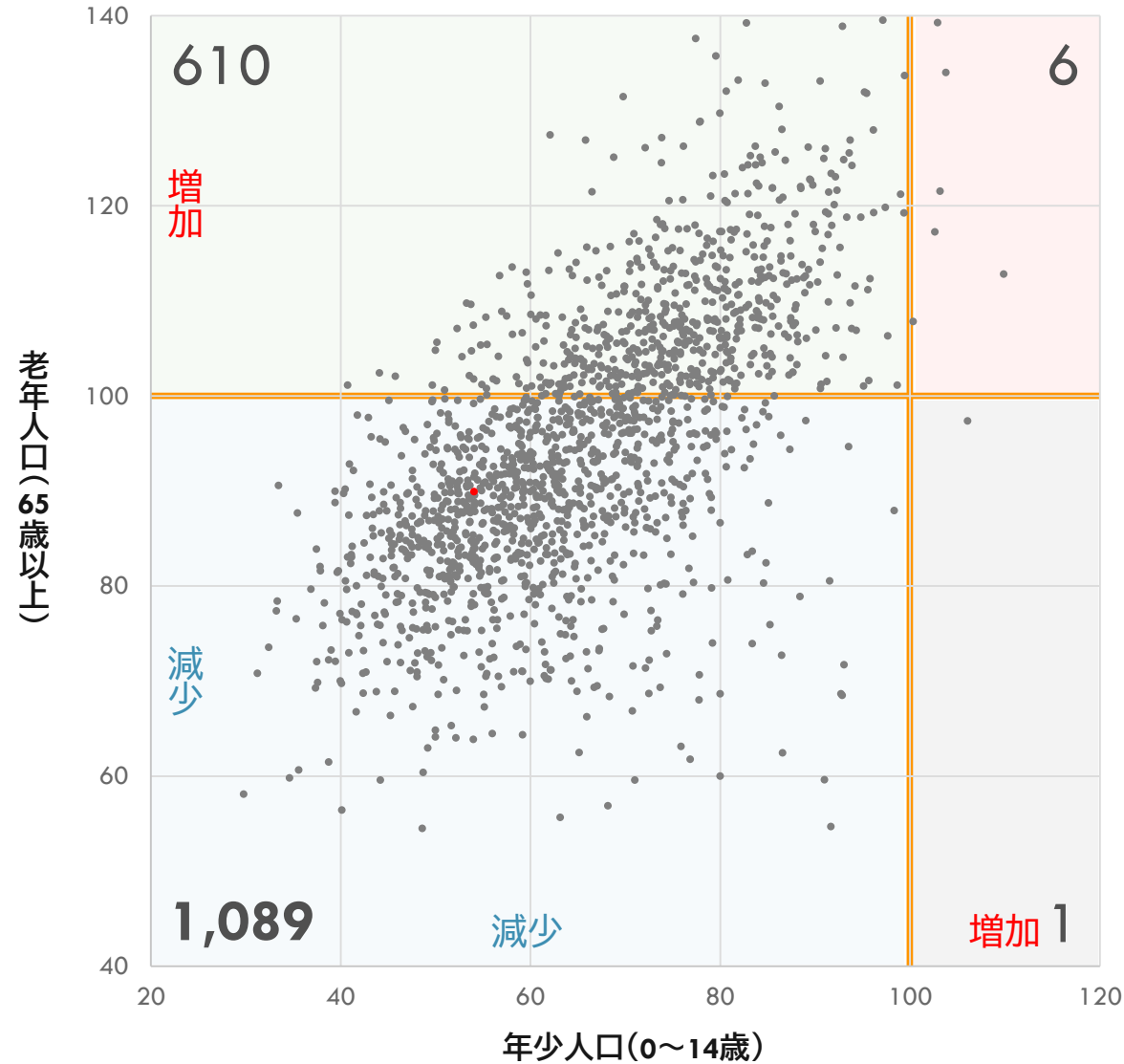
基本 目標 分野	項目	令和5年度 総合評価	成果指標					単位
			成果指標	令和 元年度 現状	令和5年度 実績	令和6年度 実績 (9月末)	令和7年度 目標	
人・生 も	1 子育て	B	出生率	4.9	3.6	－	5.2	%
			地域の子育て支援拠点となる施設の延べ利用者数	25,835	14,174	－	22,820	人
	2 学び	B	「学校が楽しい」と回答する児童生徒の割合	小 94.0 中 89.0	小 91.9 中 92.9	小 90.4 中 93.5	小 95.5 中 91.5	%
			子どもの生涯学習事業参加回数	1.41	1.08	0.78	1.45	回
健康福祉	3 健康・医療	B	特定健康診査対象者に対する受診者の割合	44.1	37.5(見込)	－	60.0	%
			特定保健指導対象者に対する指導修了者の割合	29.8	33.3(見込)	－	60.0	%
	4 地域福祉	B	ボランティア登録者数	1,293	1,102	1,111	1,350	人
			通いの場の設置数	83	77	85	90	箇所
			要介護認定率	18.7	18.8	19.1	19.4 以下	%
			障害者相談支援センターの相談件数	3,001	2,115	1,184	3,200	件
	5 スポーツ	B	スポーツ指導者公認資格の新規取得者数	0	19	24	40 (R3～7年度累計)	人
			市民1人当たりの体育施設利用回数	7.66	7.30	4.48	9.00	回
地域経済	6 農業	A	担い手への集積率	67.9	75.8	－	80.0	%
			耕作放棄地の面積	3.0	2.5	2.5	3.6 以下	ha
			道の駅年間来場者数	0	62.4	40	80	万人
	7 林業	B	林業作業士数	30	37	34	35	人
			森林間伐面積	118	78	45	130	ha
	8 商工業	B	創業者数	0	3	0	10 (R3～7年度累計)	件
			まちなかの観光入込客数	82.9	56.6	－	125.0	万人
	9 観光業	B	観光消費額	2,945	3,175	－	5,000	円
			宿泊者数	86,100	89,400	－	130,000	人
			観光入込客数	199	209	－	330	万人
			道の駅年間来場者数(再掲)	0	62.4	35	80	万人
	10 働く環境	B	国・県の働き方改革関係制度認定企業数	0	12	－	10 (R3～7年度累計)	社
			工場新設等に伴う雇用創出数	0	12	－	50 (R3～7年度累計)	人

基本 目標 分野	項目	令和5年度 総合評価	成果指標					
			成果指標	令和 元年度 現状	令和5年度 実績	令和6年度 実績 (9月末)	令和7年度 目標	単位
くらし環境	11 自然環境・ごみ	A	水質基準を達成した河川の数(全11河川)	11	10注	一注	11	河川
			1人1日当たりのごみの排出量	950	885	—	929以下	g
			ごみの資源化率	21.9	20.0	—	29.4	%
	12 水環境	B	保全目標水位に対する超過日数(過去10年の平均)	45	54	—	36以下	日
			地下水質の水道法に定める飲料水水質適合基準との適合率	97.5	97.5		100	%
			水洗化率	44.1	49.4	41.2	52.4	%
	13 生活環境	B	住宅の耐震化率	71.9	76.2	—	79.0	%
			上水道有収率	70.0	62.5	—	73.0	%
	14 消防・減災	B	消防水利の充足率	58.4	59.6	59.9	65.0	%
			防災メール登録者数	1,471	1,898	1,927	3,000	人
			普通救命講習の受講率	37.0	41.7	42.4	40.0	%
	15 道路	B	補修橋梁数	0	17	17 (11月末34)	41 (R3~7年度累計)	橋
			消雪施設補修箇所数	0	5	5 (11月末6)	6 (R3~7年度累計)	箇所
16 公共交通	A	大野市内バスの年間乗客数	24,674	25,994	9,809	30,000	人	
		広域路線バスの年間乗客数	205,329	172,467	—	225,000	人	
		JR越美北線の年間乗客数	336,307	266,583	—	346,800	人	
地域づくり	17 ひと・地域	A	公民館利用回数	3.61	3.90	1.86	3.66	回
			図書館利用回数	2.98	2.98	1.59	3.2	回
			検討会の開催	0	5	6	9	地区
	18 防災力・防犯力	B	自主防災組織の活動	20.0	32.0	8.46	100.0	%
			総合防災マップ説明会の開催	2.0	32.2	35.1	100.0	%
			刑法犯認知件数	77	87	—	70以下	件
			存在する特定空家等の件数	16	14	13	0	件
	19 文化芸術	B	公演などの参加人数の割合	37.5	17.4	21.2	45.0	%
			博物館等における企画展や講座開催数	3	9	5	5	回
	20 移住定住	A	定住のための住宅取得等助成件数	0	50	59 (上半期9)	50 (R3~7年度累計)	件
総人口に対する20~40代人口の割合			29.5	28.1	27.96	29.5	%	
移住相談件数			0	428	512	500 (R3~7年度累計)	件	
行政経営	21 情報共有	B	市ホームページアクセス件数	0	3,008,951	3,444,364 (上半期435,413)	5,530,000 (R3~7年度累計)	件
	22 協働・連携	B	検討会の開催(再掲)	0	5	6	9	地区
			姉妹都市などとの交流事業参加者数	0	29	112 (上半期83)	1,300 (R3~7年度累計)	人
	23 市民サービス	A	電子申請が可能となった行政手続きの件数	33	164	176	63	件
	24 行財政	A	財政調整基金残高	16.4	22.5	—	20.0	億円
将来負担比率			48.5	17.0	—	45.5以下	%	

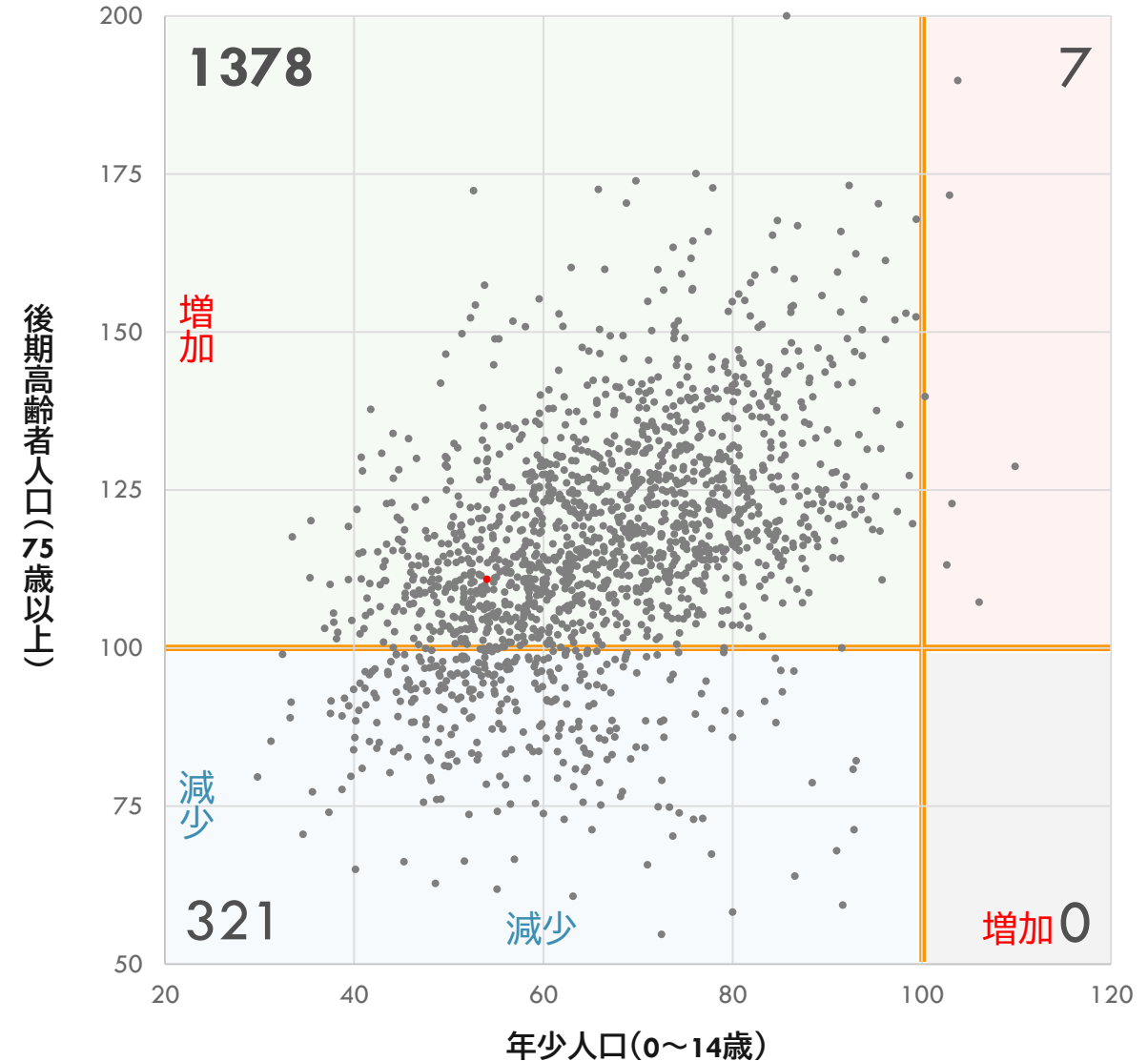
注…水質検査の市基準は国基準より高く設定しており、令和5年度の検査結果は市基準を下回ったものの、国基準を満たしていることから、環境への影響はありません。



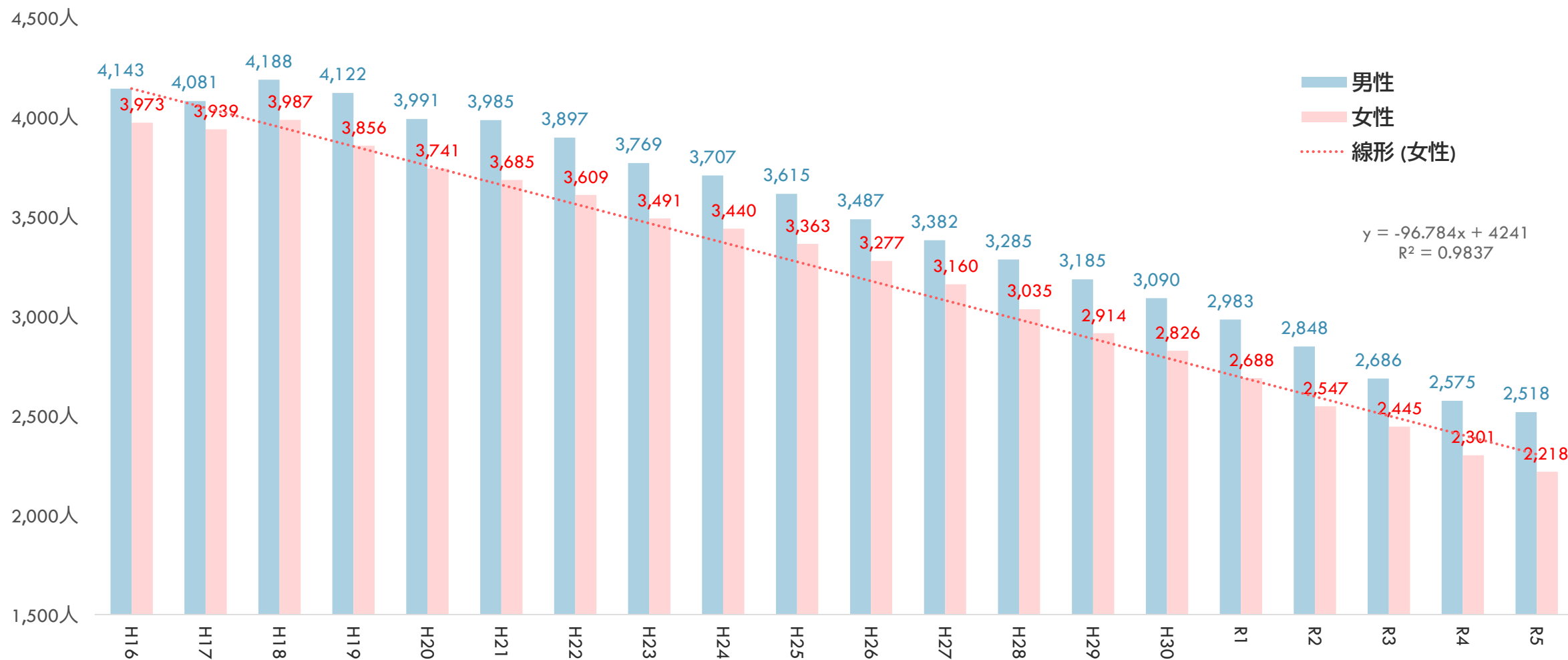
大野市(赤点)は、年少人口▲46%、老年人口▲10%



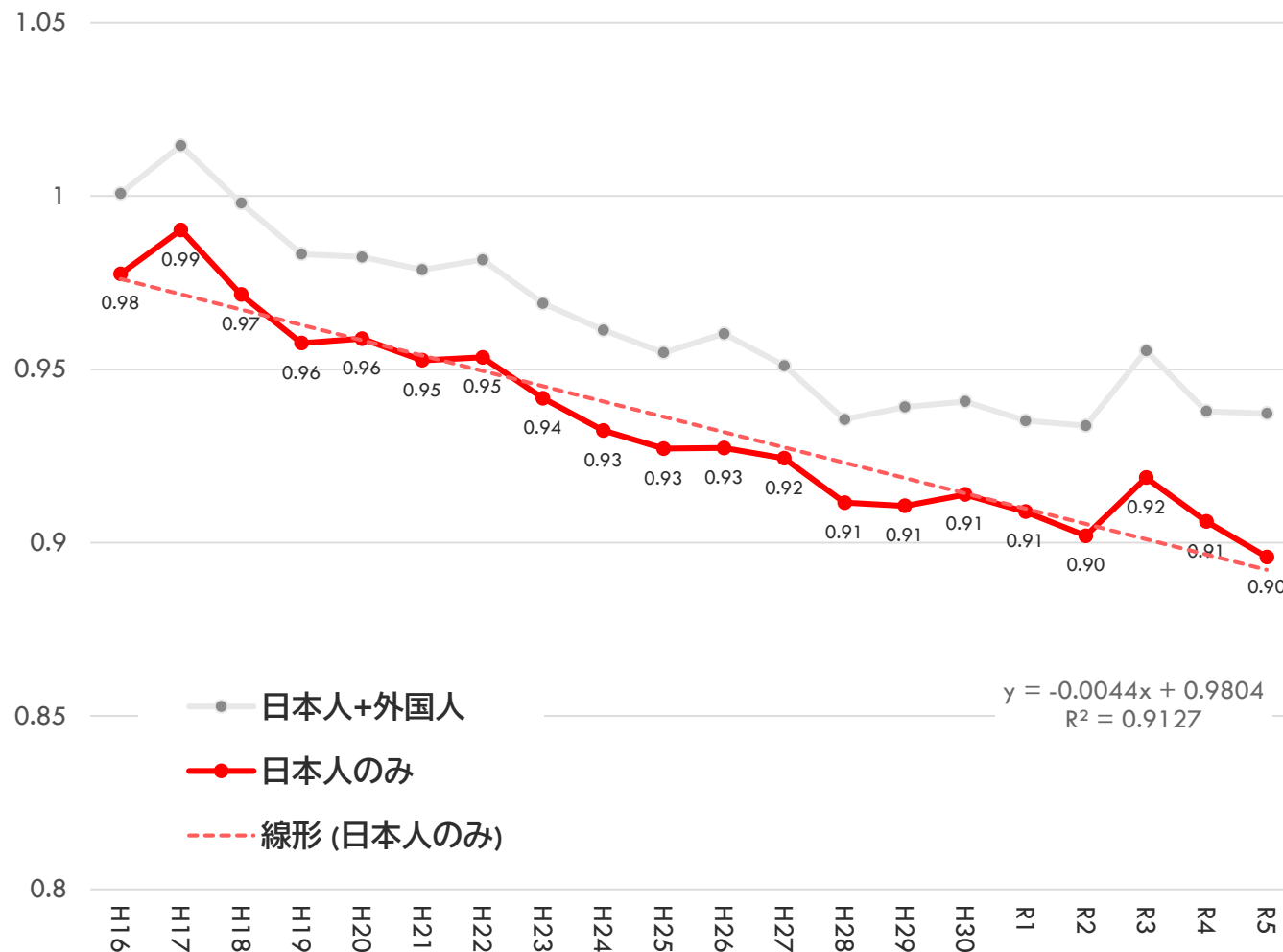
大野市(赤点)は、年少人口▲46%、後期高齢者+10%



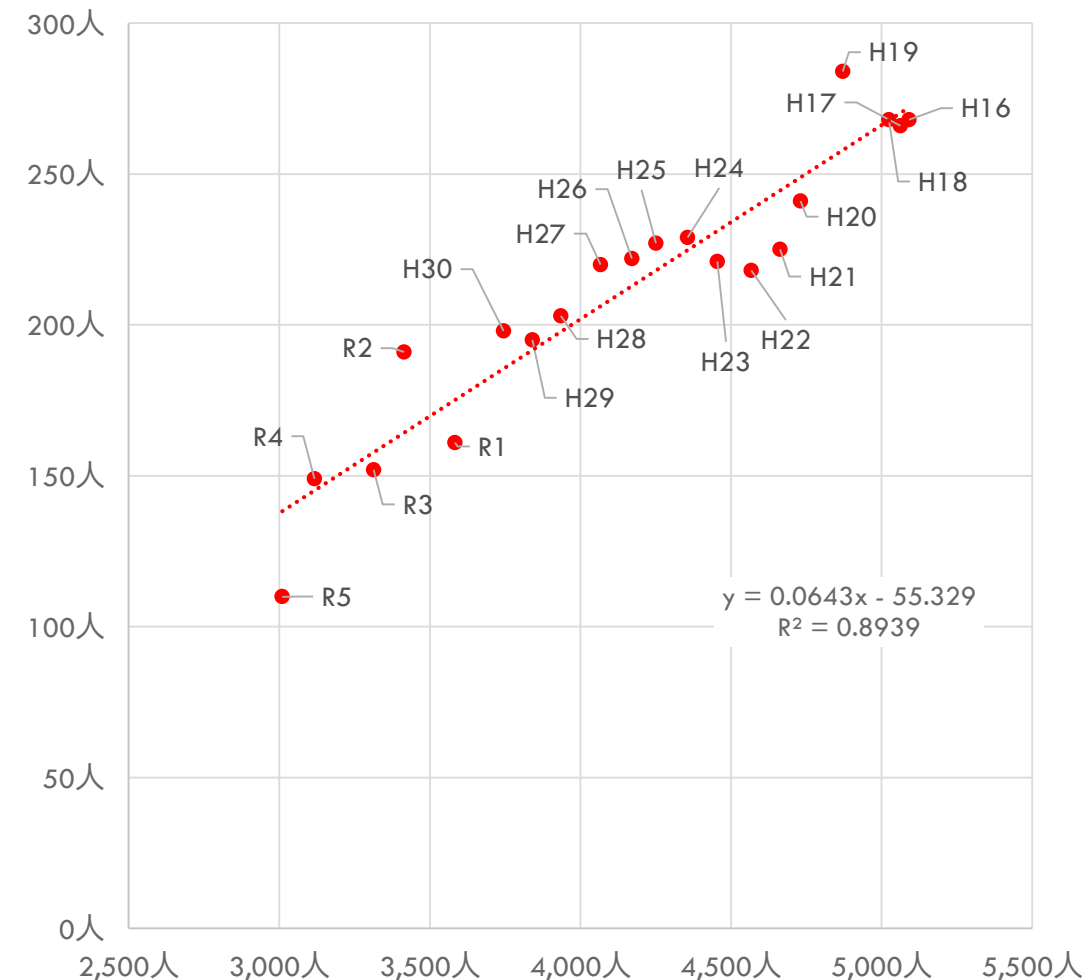
20-39歳の男女の人口(日本人のみ)



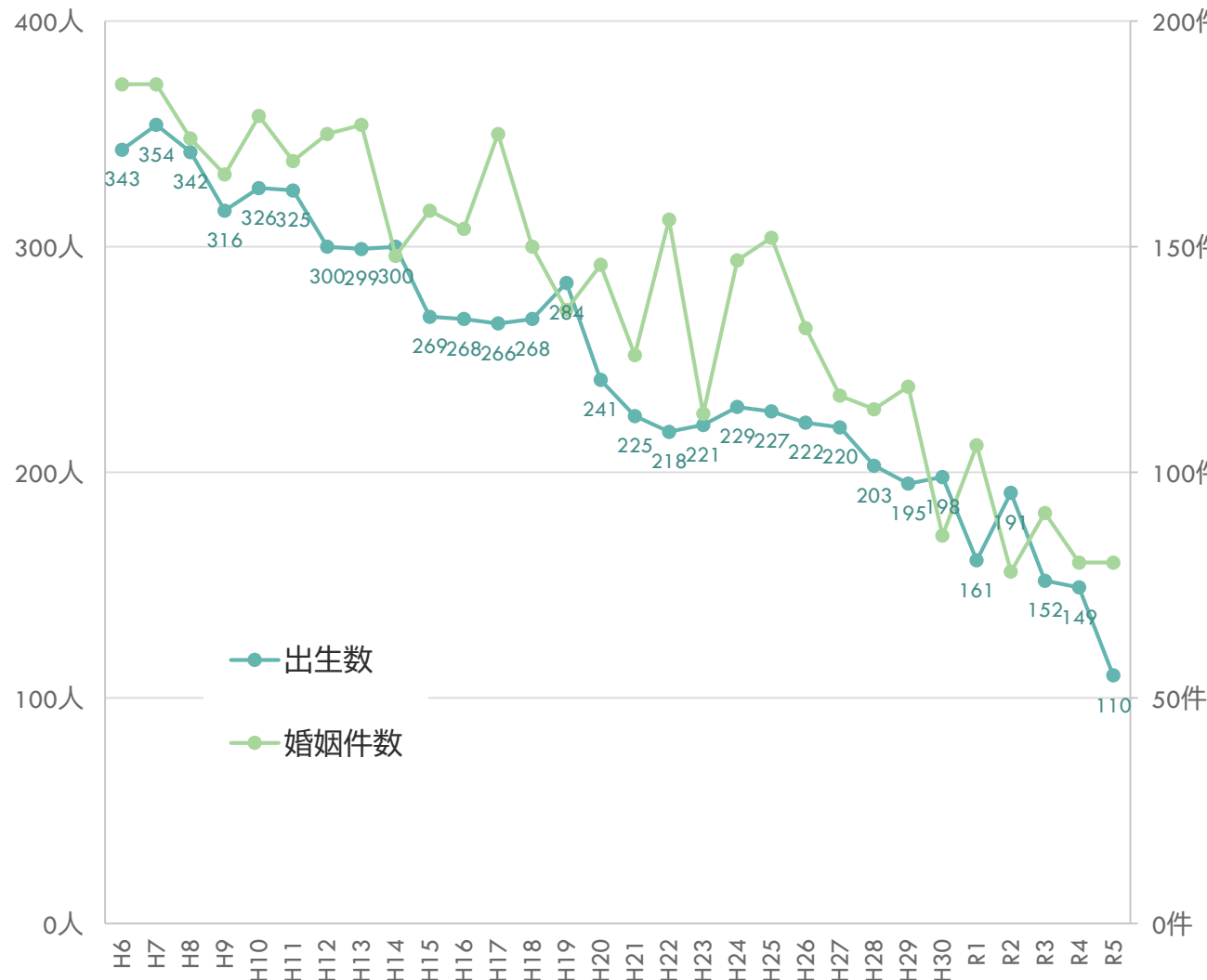
20-44歳の女性数／男性数



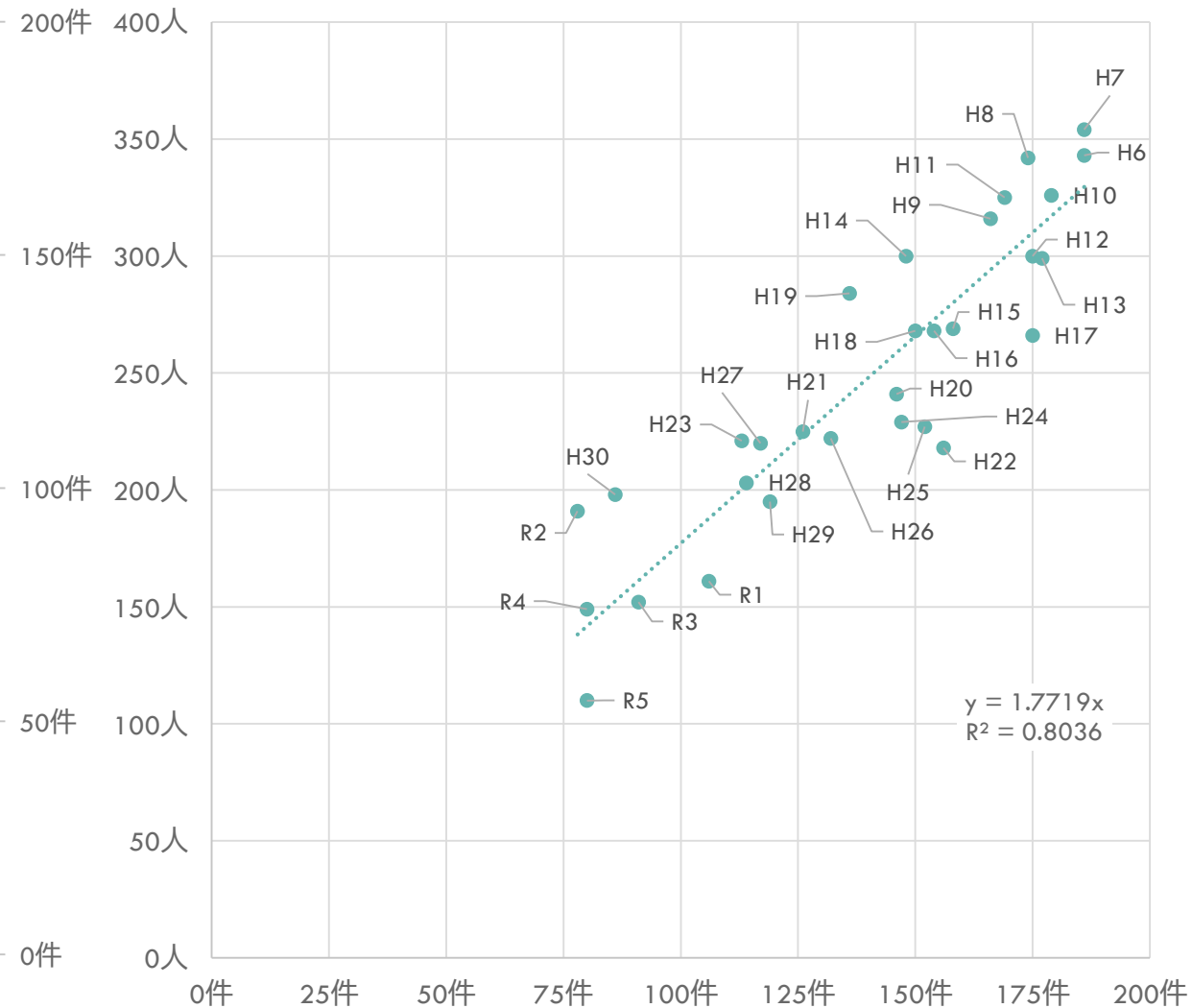
出生数(縦)と20-44歳女性数(日本人のみ:横)



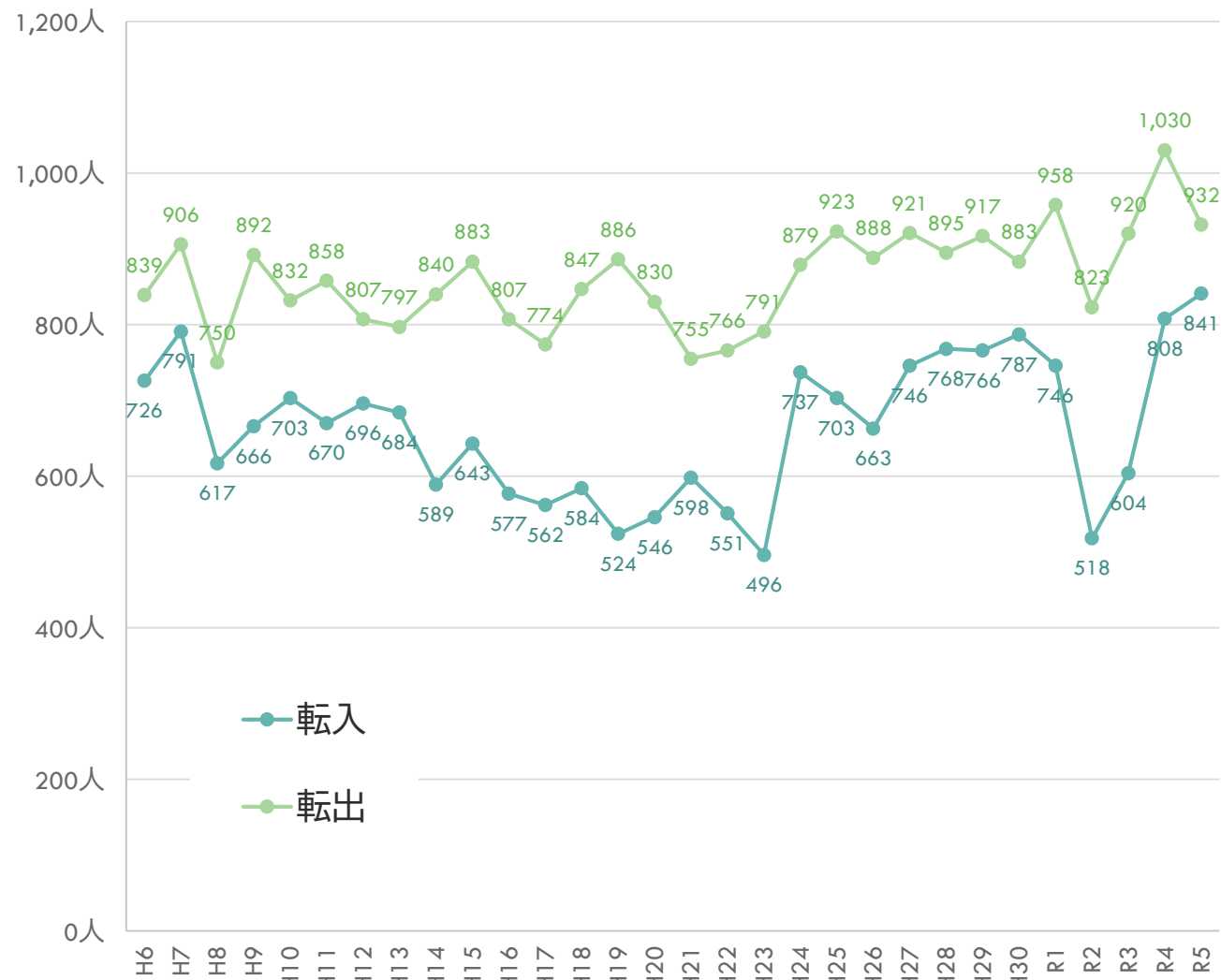
出生数と婚姻件数



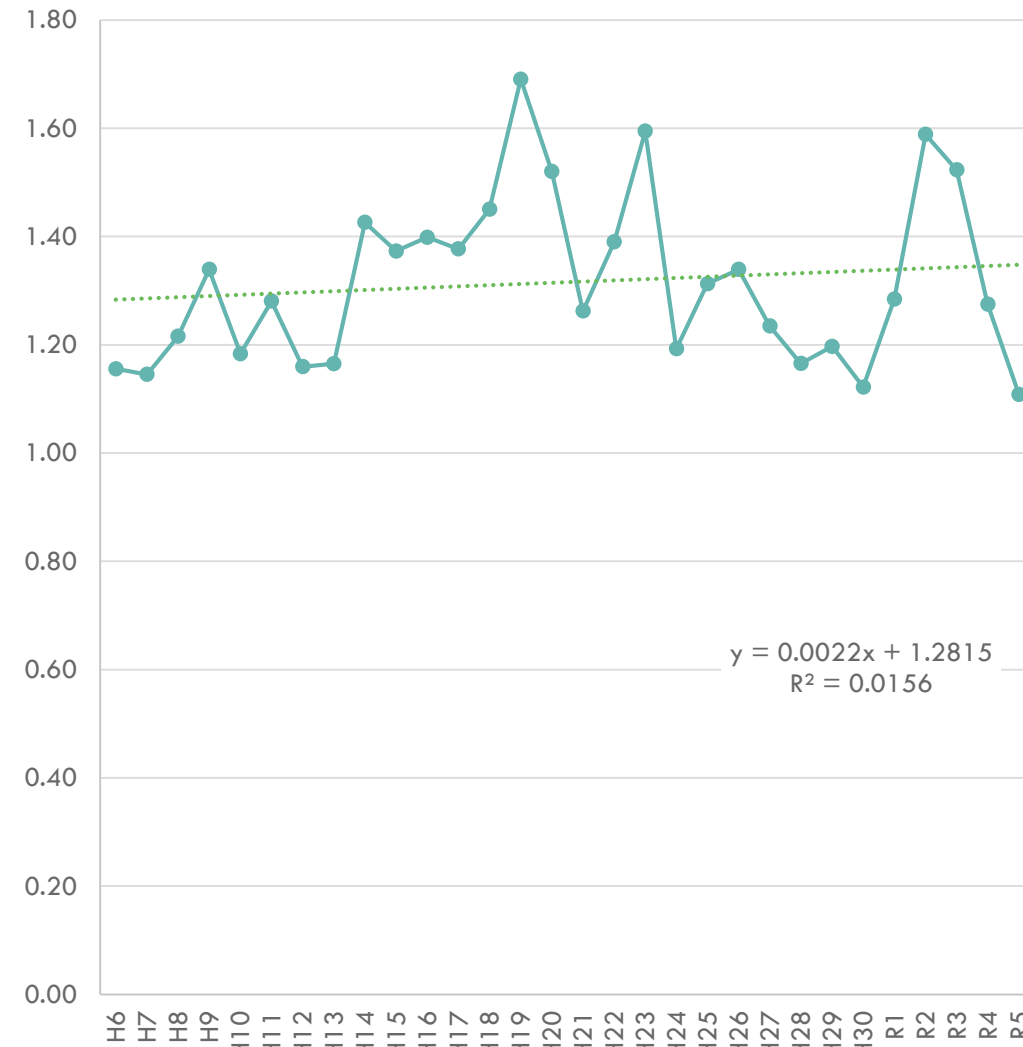
出生数(縦)と婚姻件数(横)



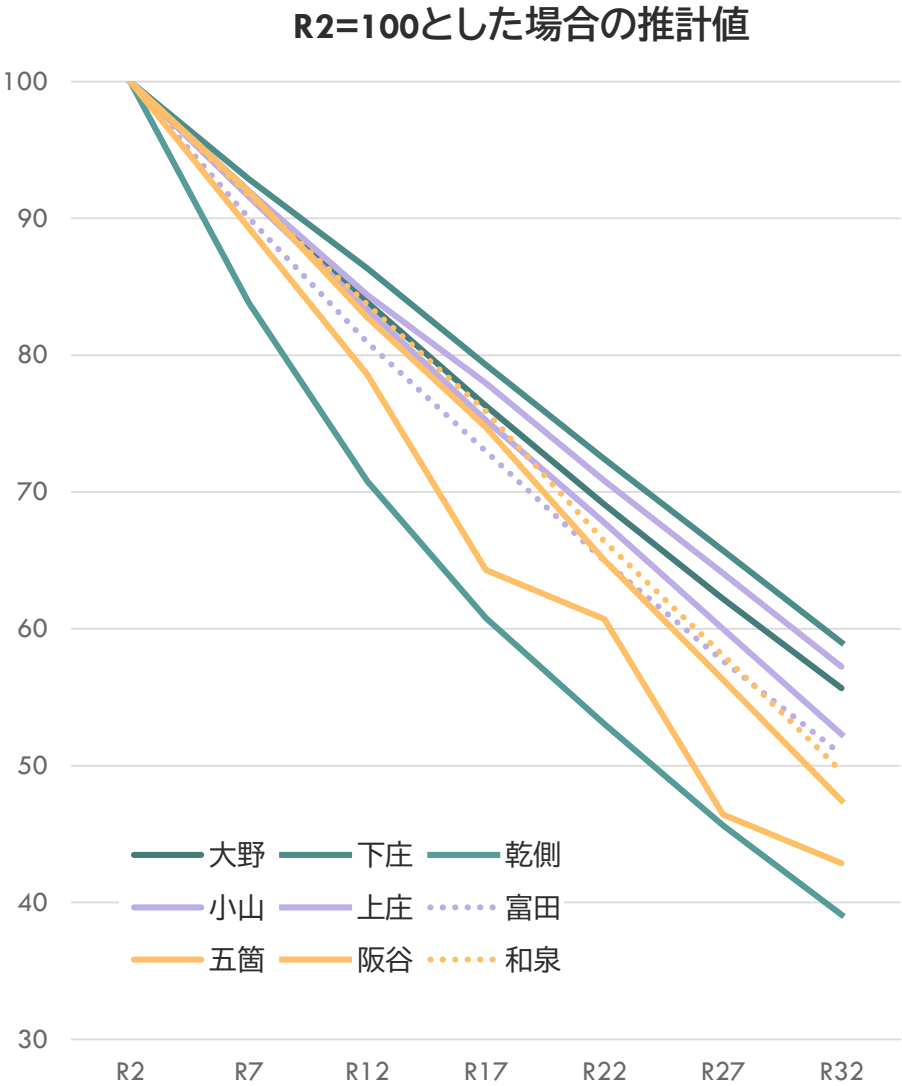
転入数と転出数



転出数／転入数



		大野	下庄	乾側	小山	上庄	富田	五箇	阪谷	和泉
R2	年少	1,473	1,023	54	137	294	259	4	81	29
	生産年齢	6,841	4,396	348	680	1,583	1,386	12	561	333
	老年	4,862	2,681	488	471	1,282	1,203	12	513	227
	(後期高齢)	(2,652)	(1,327)	(319)	(235)	(651)	(691)	(8)	(244)	(109)
	計	13,176	8,100	890	1,288	3,159	2,848	28	1,155	589
R7	年少	1,242	824	41	119	242	228	3	66	21
	生産年齢	6,046	3,915	299	595	1,376	1,173	8	451	288
	老年	4,789	2,784	406	471	1,275	1,163	14	545	231
	(後期高齢)	(2,819)	(1,522)	(276)	(253)	(745)	(683)	(8)	(269)	(120)
	計	12,077	7,523	746	1,185	2,893	2,564	25	1,062	540
R12	年少	997	647	36	95	194	188	0	60	18
	生産年齢	5,422	3,593	264	552	1,218	1,020	9	373	246
	老年	4,630	2,754	330	440	1,221	1,097	13	523	229
	(後期高齢)	(2,899)	(1,687)	(237)	(280)	(790)	(678)	(7)	(325)	(137)
	計	11,049	6,994	630	1,087	2,633	2,305	22	956	493
R17	年少	810	508	32	78	168	155	0	51	14
	生産年齢	4,867	3,262	225	510	1,067	920	9	342	213
	老年	4,374	2,652	284	416	1,142	1,003	9	470	220
	(後期高齢)	(2,802)	(1,704)	(199)	(286)	(760)	(671)	(8)	(337)	(137)
	計	10,051	6,422	541	1,004	2,377	2,078	18	863	447
R22	年少	713	453	27	65	151	129	0	41	9
	生産年齢	4,211	2,791	181	441	925	825	8	303	158
	老年	4,178	2,621	264	406	1,064	896	9	407	224
	(後期高齢)	(2,685)	(1,640)	(169)	(261)	(707)	(632)	(8)	(313)	(135)
	計	9,102	5,865	472	912	2,140	1,850	17	751	391
R27	年少	639	419	23	61	137	116	0	35	11
	生産年齢	3,627	2,361	148	375	772	726	4	259	124
	老年	3,928	2,544	235	389	986	800	9	356	207
	(後期高齢)	(2,483)	(1,523)	(149)	(233)	(631)	(557)	(4)	(256)	(122)
	計	8,194	5,324	406	825	1,895	1,642	13	650	342
R32	年少	571	374	18	54	120	107	0	28	12
	生産年齢	3,098	2,003	126	305	678	605	3	210	101
	老年	3,666	2,402	204	378	854	735	9	310	179
	(後期高齢)	(2,366)	(1,501)	(141)	(226)	(571)	(485)	(4)	(205)	(125)
	計	7,335	4,779	348	737	1,652	1,447	12	548	292



(備考) 国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3 (R2国調対応版)」を用いて地区別の数値を算出 (コーホート要因法/社人研パラメータを使用) 端数処理により各地区の合計と大野市の社人研推計の値は僅かに異なります。

将来像

基本構想

分野・基本目標

人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち

こども

未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち

健幸福祉

健幸で自分らしく暮らせるまち

地域経済

歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち

くらし環境

豊かな自然の中で快適に暮らせるまち

地域づくり

みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち

施策展開 の視点		SDGsの推進／ウェルビーイング／シェアリングエコノミー／ジェンダーギャップの緩和																																																											
項目		1 子育て			2 学び			3 健康・医療			4 地域福祉			5 スポーツ			6 農業			7 林業			8 商工業			9 観光業			10 働く環境			11 自然環境・脱炭素			12 水環境			13 生活環境			14 消防・減災			15 道路			16 公共交通			17 ひと・地域			18 防災力・防犯力			19 文化芸術			20 移住定住		
施策 （記載内容は前期基本計画）	後期基本計画	1 1 3 サポートが必要な子どもと家庭の支援 1 2 2 保護者ニーズに応じた子育てサービスの提供 1 1 1 結婚から子育てまで切れ目のない支援			2 2 3 地域と学校が連携した子どもの育ちの支援 2 2 2 児童生徒の教育環境の整備 2 1 1 優しく賢くたくましい大野人の育成			3 3 3 感染症などの予防や対策 3 2 2 地域医療体制の充実 3 1 1 ライフステージに応じた健康づくりの支援			4 4 3 障がいのある人への支援 4 2 2 高齢者への支援 4 1 1 地域共生社会の実現に向けた取り組み			5 5 3 子どものスポーツ活動の充実 5 2 2 競技力向上の支援 5 1 1 スポーツを楽しむ取り組みの推進			6 6 4 農地の適切な管理と有効利用 6 3 3 多様な人材活躍による農山村の維持と活性化 6 2 2 越前おおの産農林水産物の生産販売・振興 6 1 1 魅力ある農業経営の実現			7 7 3 林業従事者の確保と育成への取り組み 7 2 2 山林の適切な管理 7 1 1 林産物の生産能力の向上支援			8 8 2 まちなかの賑わいの創出 8 1 1 事業者の経営課題に対する総合的支援			9 9 3 観光営業活動の強化と情報発信の充実 9 2 2 観光客の来訪数と満足度を高める取り組み 9 1 1 魅力ある地域資源の観光活用			10 10 2 企業誘致と新たな産業の育成 10 1 1 企業の魅力・生産性向上と就業支援			11 11 2 ごみの減量化と資源化の推進 11 1 1 脱炭素社会の実現に向けた取り組み			12 12 3 気候変動や地下水障害への対応 12 2 2 水循環に関わる人材育成と水文化の継承 12 1 1 流域マネジメントの推進			13 13 3 上下水道基盤の整備と適切な維持管理 13 2 2 安全で快適な住宅環境の整備 13 1 1 景観に配慮したまちづくり			14 14 2 消防・救急体制の強化 14 1 1 災害に備えた体制の整備			15 15 3 健康づくりや低炭素社会実現への取り組み 15 2 2 雪や災害に強い生活道路の整備・維持 15 1 1 幹線道路等の整備促進			16 16 2 北陸新幹線や中部縦貫自動車道、人口減少社会を見据えた地域交通のあり方の検討 16 1 1 公共交通の活用・維持の推進			17 17 3 地域住民の活動拠点づくり 17 2 2 地域での交流と支え合い 17 1 1 地域を担う人づくりや生涯学習の推進			18 18 3 空き家などの対策の推進 18 2 2 犯罪や事故の防止 18 1 1 地域における防災力の充実と強化			19 19 3 郷土の歴史や文化の魅力発信 19 2 2 文化遺産・自然遺産の保護と活用 19 1 1 文化芸術の振興と継承の推進			20 20 3 大野の魅力発信 20 2 2 地域での受け入れ環境の整備 20 1 1 住まいや仕事の確保の支援		

地域づくり

地域経済

こども

健幸福祉

くらし環境

行政経営

行政経営

結のまちを持続的に支える自治体経営

21 情報共有

21-1 情報発信や情報提供の充実
21-2 施策情報の共有と市民意見の市政への反映

22 協働・連携

22-1 市民協働のまちづくりの推進
22-2 他自治体などとの協働や連携

23 市民サービス

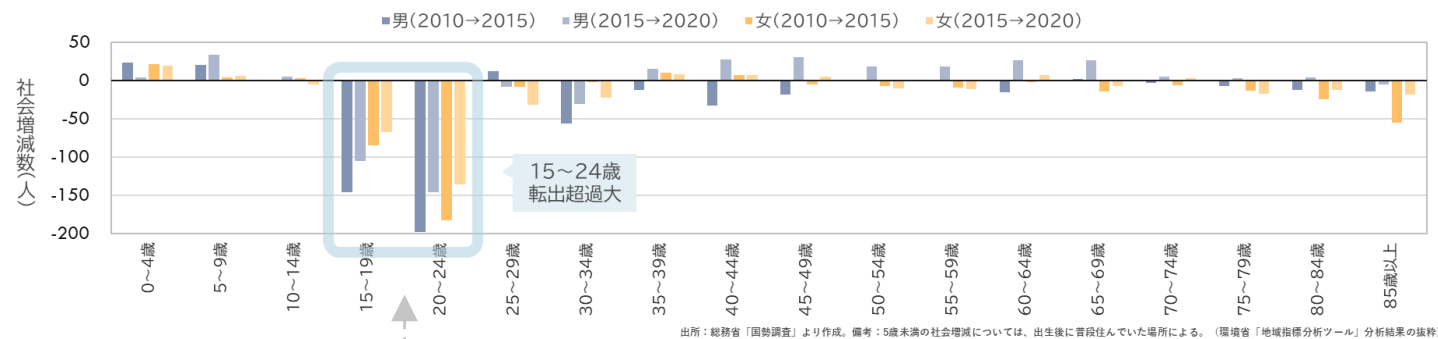
23-1 申請等の手続きのオンライン化の推進
23-2 わかりやすく丁寧な市民サービスの提供

24 行財政

24-1 持続可能な財政運営
24-2 次世代を見据えた「シゴト改革」
24-3 人材育成と組織の整備
24-4 市有財産の適正管理と、効果的で効率的な活用

ウェルビーイング・シェアリングエコノミー・ジェンダーギャップの緩和

■ 大野市 社会増減数(年齢階層別 男女別 2010→15/2015→20)



ジェンダーギャップの緩和

男女の性別によって生じる格差を無くしていくこと。

性別による格差や無意識の思い込みなどは、地方から女性や若者が流出する要因の一つとして挙げられている。

地域全体でこれらの緩和に努め、女性や若者の流出抑制を図るとともに、女性や若者をはじめ、誰もがもっとイキイキと暮らすことができるまちづくりにつなげていく。



人口

ウェルビーイング指標

ウェルビーイング
指標の結果・値など

PDCA
サイクル

施策



シェアリングエコノミー

個人や企業などが持つモノや場所、スキルなどの資源を、必要な人に提供したり、共有したりする新しい経済の仕組み。

住民による共助型の移動支援、家庭で余っている食品を寄附し食品ロスを削減するフードドライブの取り組み、副業の推進などが挙げられる。

人口が減少する中、限られた資源を有効に活用するとともに、資源の共有や助け合いを通じた人と人との関わりを創出し、持続可能なまちづくりにつなげていく。

SDGs(持続可能な開発目標)の推進

長期的な国際目標として国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)。

総合計画に掲げる施策とSDGsの目標を関連付け、多様な主体が連携して施策を展開することでSDGsを推進し、持続可能なまちを目指す。